

分野	専門分野Ⅰ	対象学年	1
	—基礎看護学—	時期	前期～後期
授業科目	日常生活援助技術Ⅱ	単位	1
	(清潔・衣生活)	時間	30
	Care skills for daily Life Ⅱ	方法	講義・演習
担当教員	始業後、担当教員一覧および授業ガイダンスにて確認		
科目責任者	看護師として附属病院と他病院合わせて14年間の実務経験有		
授業概要	身体と寝衣の清潔が保たれることは、どのような健康や障害の状態・発達段階にあっても人間の基本的な欲求である。本科目では様々な清潔援助を通して、清潔と衣生活の意義と援助方法を学び、対象に合わせた援助を工夫できるようになるための基礎的技術を身につける。そして、演習の中で患者役を経験し、対象への配慮の実際や倫理的判断の基礎を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 清潔・衣生活援助技術の意義と援助方法を理解する。 2. 清潔・衣生活援助技術の基礎的技術を身につける。 3. 対象の尊厳に配慮する姿勢を養う。 4. わからないことを自ら考え、調べる姿勢を養う。 5. 主体的に取り組む姿勢を養う。 		
評価方法	終講試験 100点 ※基礎看護技術統合で技術試験を行います。		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学[2] 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学[3] 医学書院		
参考図書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院		
メッセージ	清潔・衣生活の援助技術は演習が多い単元です。技術の方法だけでなく、目的や根拠をしっかりと理解できるようにしましょう。また、実習で実践する機会が多い技術です。対象の清潔を保ち、回復や安楽を促進する援助になるよう、積極的に練習をして技術を身につけていきましょう。		

回数	単元・主題	授業のねらい	授業内容	方法	備考
1	I 清潔・衣生活 援助技術 1.清潔援助の基礎知識	清潔の意義と援助方法を理解する	清潔とは、汚れの原因と清潔方法、清潔援助における生理・精神・社会的影響と看護者の役割、清潔援助のプロセス、入浴の目的と全身への影響、入浴・シャワー浴の実際	講義	
2	2.部分浴の援助 (手浴・足浴)	部分浴の意義と援助方法を理解する	部分浴の適応と目的、手浴(手の特徴、目的、効果、留意点、観察)、足浴(足の特徴、目的、効果、留意点、観察) 部分浴における原理・原則 足浴のデモンストレーション	講義	
3	3.部分浴の援助の実際	部分浴の援助ができる	臥床または座位保持が可能な対象への足浴 使用物品の準備と配置、湯温の調整と取り扱い 体位と支え方、石鹸を用いた洗浄、保温に配慮した工夫、援助を実施しながらの観察・声かけ	演習	

4	4.衣生活の基礎知識と援助	衣生活援助技術の意義と援助方法を理解する	衣服の意義、対象者の状態と衣生活、衣生活に関するアセスメント、援助の実際、臥床患者の寝衣交換の実際、輸液ラインが入っている場合の寝衣交換	講義	
5	5.全身清拭と陰部ケア	全身清拭の意義と援助方法を理解する	全身清拭の意義、清拭実施前のアセスメント、清拭援助の実際、陰部ケアの意義、清拭と陰部清拭の体験	講義	
6	6.全身清拭と寝衣交換の実際	全身清拭、寝衣交換の援助ができる	臥床患者の全身清拭と寝衣交換 使用物品の配置と環境調整、湯温の調整と清拭タオルの取り扱い、身体各部の特徴に合わせた清拭方法、対象の羞恥心や保温に配慮したバスタオルの使い方、対象の身体に負担がかからない寝衣の交換方法、援助を実施しながらの観察	演習	
7	7.頭皮、頭髪の清潔援助	頭皮・頭髪の清潔の意義を理解する	頭皮・頭髪の清潔の意義、洗髪実施前のアセスメント、洗髪の援助の実際、体位のとりかたの研究	講義	
8	8.対象に応じた洗髪の援助の実際	洗髪の援助ができる	臥床している対象の洗髪車を用いた洗髪 椅座位が可能な対象の洗髪台出の洗髪 使用物品の準備・配置、湯量と温度の調整、安楽な体位、ブラッシング、洗い方、すすぎ方、整髪、配慮した声かけ・観察	演習	
9	9.口腔ケアと整容（爪切り、髭剃り）	整容の意義と整容援助技術について理解できる	整容の意義、整容援助時のアセスメント、整容の内容と方法、口腔ケアの意義、口腔ケア援助時のアセスメント、口腔ケアの実際	講義	
10	10.口腔ケアと整容の実際	整容ができる	顔面清拭、口腔ケア、T字剃刀を用いた髭剃り 使用物品の準備・配置、顔の構造・特徴に合わせた清拭、誤嚥を起こさない方法での口腔ケア、皮膚を傷つけない方法での髭剃り、心理的苦痛への配慮、援助を実施しながらの観察	演習	
11	II 対象に応じた清潔援助の実際 1. 統合演習① （部分浴）	対象の状態や状況に応じた清潔援助の実際を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・対象の症状や自立度に合わせた援助方法の立案と援助の実際 ・対象の症状の悪化や事故防止を考えた援助 ・対象の症状や状況に合わせた、適切なコミュニケーション 	演習	
12	2. 統合演習② （洗髪）				
13	3. 統合演習③ （全身清拭）				
14	4. 統合演習④ （寝衣交換）				
15			終講試験		

